横田飛行場へのＣＶ－２２オスプレイの配備に係る外務省及び防衛省の説明

問　　オスプレイとはどのような航空機ですか。

答　　オスプレイは、回転翼を上に向けた状態ではヘリコプターのようにホバリングや垂直離着陸が可能であり、前方に傾けた状態では固定翼機のように高速で長距離飛行することができる航空機です。

　オスプレイには、海兵隊向けの機体であるＭＶ－２２オスプレイ及び空軍向けの機体であるＣＶ－２２オスプレイがあります。

問　　ＣＶ－２２オスプレイとＭＶ－２２オスプレイの違いは何ですか。

答　　ＣＶ－２２オスプレイは、沖縄に配備されている海兵隊向けのＭＶ－２２オスプレイと機体構造及び基本性能（エンジン、飛行システムの基礎）が同一です。

　ＣＶ－２２オスプレイは、ＭＶ－２２オスプレイとは従事する任務が異なることから、ＭＶ－２２オスプレイにはない地形追随装置等を装備しています。

問　　ＣＶ－２２オスプレイはどのような役割・任務を担っていますか。

答　　ＣＶ－２２オスプレイは、各種事態が発生した場合に、初動対応を行う米軍部隊を輸送することを主な任務としています。

　我が国に配備されるＣＶ－２２オスプレイが輸送する米軍の部隊は、アジア太平洋地域に所在する米軍の特殊作戦部隊等です。

　大規模災害が発生した場合には、ＣＶ－２２オスプレイの高い能力をいかして、捜索救難等の人道支援・災害救援活動を迅速かつ広範囲にわたって行うことができます。

問　　ＣＶ－２２オスプレイは、いつ横田飛行場に配備され、その機数は何機ですか。

答　現時点では、米国は２０２１年（平成３３年）までに計１０機のＣＶ－２２オスプレイを横田飛行場に配備する計画であり、最初の３機を２０１７年（平成２９年）の後半に配備する予定となっています。

問　日本の中でなぜＣＶ－２２オスプレイを横田飛行場に配備されるのですか。

答　ＣＶ－２２オスプレイは米空軍の輸送機であり、我が国有事を始めとして各種事態が発生した場合に、沖縄やグアムなどアジア太平洋地域の複数箇所に所在する米各軍の特殊作戦部隊を輸送することを主たる任務としています。

また、我が国において首都直下地震や南海トラフ地震等の大規模災害が発生した場合に、迅速かつ広範囲にわたって、捜索救難等の人道支援・災害救援活動を行うことができます。

米側からは、こうしたＣＶ－２２オスプレイの任務や役割を踏まえた上で、運用や訓練上のニーズ、機体整備のための施設が活用できること、１０機のＣＶ－２２オスプレイ及びその要員を受け入れるためのスペースを有していること等、様々な点を総合的に勘案し、横田飛行場への配備が最適であると判断した旨、説明を受けています。

問　ＣＶ－２２オスプレイの安全性をどう考えていますか。

答　米国は、全ての信頼性・安全性基準を満たすと判断して２００７年（平成１９年）にＣＶ－２２オスプレイの運用を開始しました。

また、政府は、独自の事故分析評価や日米合同委員会合意等を通じて、２０１２年９月までに、我が国におけるＭＶ－２２オスプレイの運用の安全性を確認しています。

他方で、ＣＶ－２２オスプレイの安全性等について地元に懸念が存在することは承知しており、政府としては、ＣＶ－２２オスプレイの運用に当たって安全面に最大限の考慮を払うとともに、地元に与える影響を最小限

にとどめるよう引き続き米側との間で必要な協議を行っていく考えです。

問　ハワイでのＭＶ－２２オスプレイの事故をどう考えていますか。

答　ハワイでの事故の原因ついては、調査中であり、米国から報告があり次第、速やかに説明するとの回答をいただいております。

問　配備先となる横田飛行場周辺では、どのような運用・訓練をするのですか。

答　横田飛行場周辺の上空で行われる訓練は、通常の離着陸訓練等の操縦訓練が大半となります。

緊急対処時の手順の確認のための訓練等、一定の操縦訓練はシミュレータにより実施されます。

また、横田飛行場における既存の飛行経路を飛行し、訓練や運用に際しては、騒音規制措置を含む既存の全ての日米合意が遵守されます。

問　横田飛行場以外では、どこで訓練を実施するのですか。

答　国内における主な訓練場所については、米軍施設・区域のほか、自衛隊の訓練空域等を予定しております。

訓練に際しては、既存の全ての日米合意が遵守されます。

問　ＣＶ－２２オスプレイの騒音レベルは、どのくらいですか。

答　ＣＶ－２２オスプレイの騒音については、現在横田飛行場に配備されている航空機と比較すると、Ｃ－１２輸送機の騒音よりは大きいものの、現在の配備機種の大半を占めるＣ－１３０輸送機やＵＨ－１ヘリコプターの騒音レベルとほぼ同じであります。